

日本精神保健看護学会

-The Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing-

ニュースター 第22号
平成10年4月15日

事務局：
〒150 渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学内
(理事長 中山洋子)
TEL: 03-3409-0875
FAX: 03-3409-0589

第8回 日本精神保健看護学会 総会・学術集会
メインテーマ：急性期ケアのジレンマ
-人権の保障と最小限の拘束-

○日時：1998年6月6日(土)・6月7日(日)
○場所：聖路加看護大学(東京都中央区明石町10-1)

プログラム

【第1日目：6月6日(土)】

12:00-13:00 受付
13:00 開会
13:00-15:30 基調講演「急性期ケアのジレンマ-人権の保障と最小限の拘束-」
講師 Lucy Fisher RN, MS, CNS
Educational Director of the San Francisco Mental
Health Rehabilitation Center

15:30-16:00 休憩

16:00-18:00 ワークショップ

〔テーマ〕

- 1)精神科看護事例検討会
- 2)リエゾン精神看護
- 3)当事者活動の現在
- 4)精神科看護における倫理的ジレンマ
- 5)体験グループ
- 6)精神看護学の教育展開(講義と実習)

〔担当責任者〕

- 岡谷恵子(日本看護協会研修センター)
- 川名典子(聖路加国際病院)
- 田中美恵子(東京女子医科大学)
- 羽山由美子(聖路加看護大学)
- 武井麻子(日本赤十字看護大学)
- 安藤幸子(神戸市立看護大学)

18:30-20:00 懇親会 聖路加国際病院エスポワール

【第2日目：6月7日(日)】

9:00-12:30 《一般演題発表》：1題発表15分、討議15分

(*4/3現在)

第1群 ケースへの関わり方と援助技法

- 1 高機能自閉症青年の就労における適応行動獲得のための援助に関する研究
鈴木英子(北里大学大学院)、他
- 2 解離症状を呈した精神分裂病患者へのアプローチについて
古市磨利(大阪赤十字病院)、他
- 3 退院可能と思われながら退院できない精神分裂病患者への看護援助
-患者の生活史を捉えた看護援助の有効性-
菊池美穂子(国立小諸療養所)、他
- 4 婚約前の性的問題を抱えたカップルへの治療的援助
伊豆一郎(山梨県立看護短期大学)、他
- 5 精神分裂病圏の患者を対象とする心理教育
-症状管理に焦点を当てた一対一のアプローチ-
川添由紀(東京女子医科大学)
- 6 精神科における看護者の症状の観察とアセスメント能力の向上に関する一考察
深沢裕子(長谷川病院)
- 7 看護婦による精神分裂病患者への訪問看護に用いられるケア技術の特徴
萱間真美(東京都精神医学総合研究所)

第2群 家族への援助と地域ケア活動

- 1 家族介入により改善した境界例患者の事例について
間 文彦（大阪赤十字病院）、他
- 2 精神分裂病患者をもつ家族の心理過程
－親の心理状態の概念仮説モデルを用いた1事例の関わり－
土本千春（金沢大学医学部附属病院）、他
- 3 精神障害者をもつ家族の心理態度に関する研究
－患者および共同体との関係性に焦点をあてて－
田上美千佳（東京都精神医学総合研究所）
- 4 摂食障害患者の家族教室におけるグループダイナミクス活用の有効性
長井キミ（盛岡赤十字病院）
- 5 地域で生活するために－A子とのかかわりからわかったこと－
青柳繁子（国立精神神経センター国府台病院）、他
- 6 職域から地域へ－在宅生活支援実現における保健婦の役割－
馬場芳子（NTT関東健康管理所横浜センター）、他
- 7 地域で生活をする発症10年未満の精神障害者のセルフケアと支援システムとの関連(1)
宇佐美しおり（兵庫県立看護大学）

第3群 精神科看護婦の役割とリエゾン活動

- 1 桜ヶ丘記念病院における精神衛生法時代（後期）の看護者の役割
－男子閉鎖病棟と解放病棟を中心として－
白石寿美子（慶應義塾看護短期大学）、他
- 2 摂食障害患者への看護の困難さについての分析
森 啓子（横浜市立市民病院）、他
- 3 一般的に看護婦にとって“対応困難”といわれる患者への援助過程の分析
－精神力動的考察を中心に－
葛生里英（埼玉県精神保健総合センター）
- 4 身体化障害患者の治療過程と病棟における精神看護
－対人環境としての看護婦の役割－
川名典子（聖路加国際病院）
- 5 看護婦が対応に苦慮する状況とその心理
村田さやか（北里大学東病院）
- 6 ナースのアサーション行動の特性
野末聖香（横浜市立市民病院）、他

第4群 精神科医療における多様な状況と課題

- 1 月経が精神疾患患者に及ぼす影響－アンケート調査から比較検討－
浅田英子（国立舞鶴病院）、他
- 2 外来待合室＝「ホッとできる場」を保証することについての－考察 その2
三原喜代香（京都市立病院）
- 3 精神看護における看護過程展開時の使用理論
宮崎徳子（静岡県立大学短期大学部）、他
- 4 精神科実習における保護室体験の意味を考える
清水瑞恵（奈良県立医科大学病院）、他
- 5 保護室の物理的環境についての－考察
－保護室使用患者への面接調査結果をふまえて－
高山七穂子（長野県立看護大学）、他
- 6 精神科患者の行動制限の実態と看護者が直面する患者状況について
－大学病院精神科閉鎖病棟の看護記録から－
近藤恵子（北里大学東病院）、他
- 7 精神科における医療事故と看護者の責任
－刊行された裁判例の分類から－
藤野邦夫（新潟大学医療技術短期大学部）

12:30～13:30 昼食

13:30～14:00 《第8回 日本精神保健看護学会・総会》

14:10~16:10 《シンポジウム》

テーマ：「急性期ケアのジレンマ 一人権の保障と最小限の拘束」

司会：中山洋子（福島県立医科大学）

瀧川 薫（東海大学）

シンポジスト：

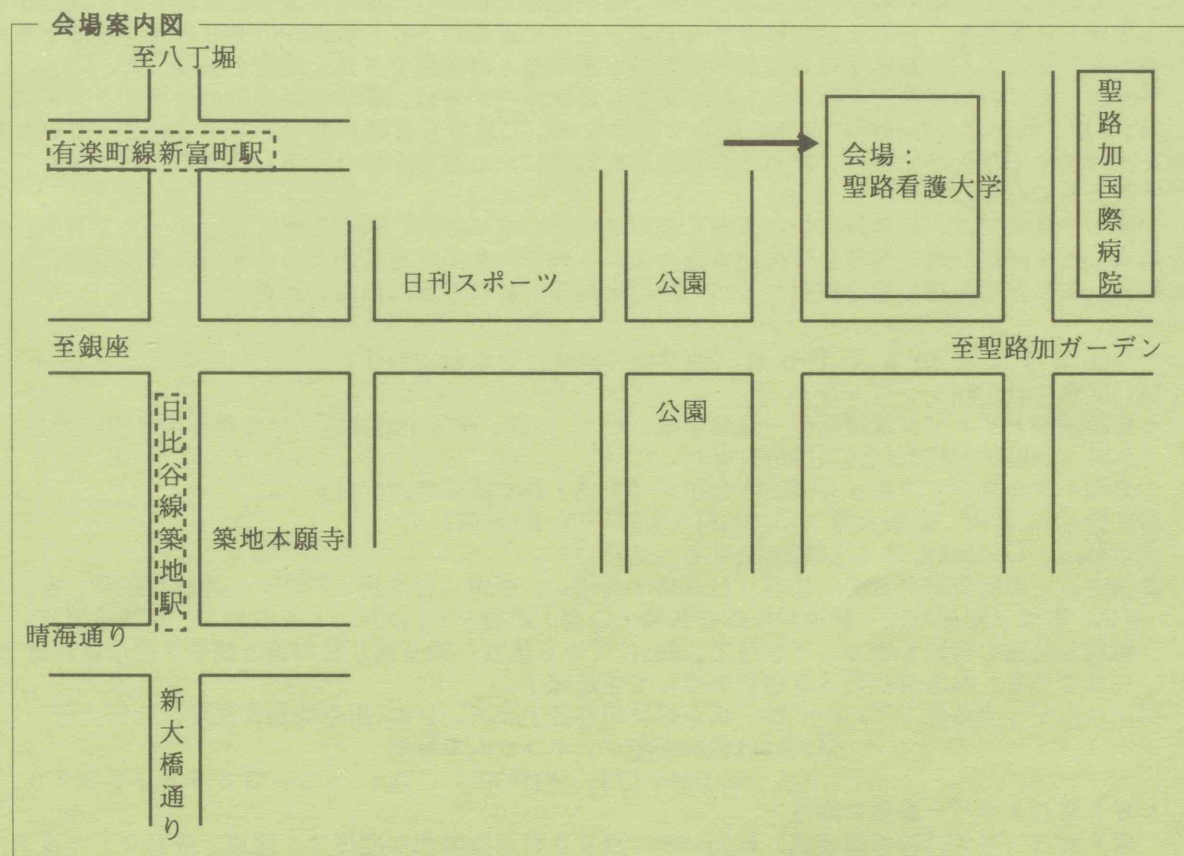
釜 英介（東京都立松沢病院）

荻野美智子（相州病院）

Lucy Fisher(San Francisco Mental Health Rehabilitation Center)

《注意事項》

- ・一般演題の発表に際して、OHP・スライドは使用できます。
- ・2日目にお茶とお弁当の用意がありますので振込用紙にて、お申し込み下さい。
- ・大学構内は禁煙です。飲食は、2階学生ラウンジのみとさせていただきます。



<交通のご案内>

- 1) 東京駅より地下鉄丸の内線、銀座駅にて、日比谷線乗り換え、築地駅下車、徒歩5分。
- 2) 東京駅八重洲口より、タクシー、8キロ、15分、2,000円位。
- 3) 地下鉄有楽町線・新富町駅下車、徒歩8分。

平成10年度総会・学術集会・懇親会の申し込みについて

平成10年度総会、第8回学術集会の参加申し込みハガキと振り込み用紙が同封されています。総会・学術集会に参加される方は、同封の振り込み用紙にてご入金の上、申し込みハガキ（総会を欠席される方は、必ず委任状に署名捺印下さい）を学術集会事務局まで5月15日（金）までにお送り下さい。学術集会参加費は、会員4,000円、非会員6,000円となっております。懇親会に参加される方は、懇親会費5,000円も同時にお振り込み下さい。

なお、振り込み用紙はお一人様1枚でご使用頂き、通信欄の該当箇所には必ず○印をお付け下さい。専用の振り込み用紙がない場合は、郵便局備え付けの用紙にて、「00130-3-29024日本精神保健看護学会・学術集会」宛て、会員・非会員、懇親会参加の有無を明記して、合計金額をお振り込み下さい。

*なお、当日は振り込み領収書の控えをご持参下さい。

教育活動委員会企画・第1回ワークショップ「境界例の看護」を終えて

教育活動委員 岡本典子（長谷川病院）

2月7日、記念すべき長野オリンピックの開会式当日、大阪は赤十字病院にて私たち教育活動委員は第一回ワークショップ「境界例の看護」を開催した。

この巡業の目的は日々我々が臨床で抱えている問題について、議論と事例検討を通し具体的な看護援助を考えることと、もう一つ、教育的活動を通して本学会をアピールするという広報活動にある。今回会場となった大阪を含む近畿地方の会員教は、全体の約10%で今後会員教の増加を期待したい地区である。本学会は半数以上が関東地区に在住しているため、関東以外での初事業に不安もあった。ところが盛り上がり欠けると危惧された長野オリンピック同様、定員を遥かに上回る100名以上の参加を得て大盛況であった。これは、精神科において境界例患者について関心が高いことを示すと同時に、会場となった大阪赤十字病院の方々の暖かい御協力によるものである。

ワークショップの午前中は、兵庫県立看護大学講師、宇佐美しおり先生に「ボーダーラインの精神病理と看護ケア」というテーマで講義を頂いた。臨床では、つい目先の患者の問題行動にばかり捉われがちである。後に振り返り、患者の心の中で何が起きているのかを考えようと試みても、病理がわからず途方に暮れることもしばしばであったが、先生の講義により一歩深みのある看護を展開できそうである。また知らず知らず敬遠しがちな理論の重要性を再認識する良い機会ともなった。

午後は、3つの事例検討を行った。私が参加したグループでは、参加者が事例に登場する患者にsplitさせられたような状態になり、恐らく病棟において患者と看護スタッフの中で起こっていた力動を再体験することができた。またその状態を客観的に振り返るという作業も行うことができたことは大変貴重であった。

今回の初巡業では、精神科に携わる多くの方々の熱心さに触れ、精神を病む患者が一人でも多く癒されることを確信した。精神科に携わる方々のエネルギーがより患者のために使われるように、知識を貯え、また技術を磨く場を提供するべく修行を積み、また巡業に出たいと思う。

Information (他学会・研究会等のお知らせ)

第13回精神研国際シンポジウム

<先端医療とリエゾン精神医学—臓器移植、がん、HIV、遺伝子治療における精神医学的問題>
日時：1998年9月29日(火)、30日(水)

会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）【英語・日本語同時通訳付】

参加費：5,250円 懇親会費：10,000円（9月29日5:40-8:00）

申込期限：7月15日まで（先着200名をもって締切）。

参加申込：事前登録が必要。氏名（日本語・英語）、所属（日本語・英語）、連絡先住所、電話FAX、職種（精神科医・精神科以外の医師・心理・看護・ソーシャルワーカー・その他）、参加希望日、懇親会参加の有無を書き、下記宛て、Faxにて申し込む。折り返し案内書と振り込み用紙が送られてくる。参加費払い込み確認を持って登録完了。

問い合わせ・申込先：〒156-8585 東京都世田谷区上北沢2-1-8、東京都精神医学総合研究所
第13回精神研国際シンポジウム事務局

tel：03-3304-5701（内線305）、Fax：03-3304-9396

<WFMHメンバー募集の案内>

WFMH（世界精神保健連盟）は1948年に設立された国際的な団体で、国連、WHO、ユネスコなどの国際機関に対して精神保健分野のコンサルタント機関として認められています。世界約120ヶ国から精神保健分野の専門家、当事者、家族、ボランティア、様々な団体がメンバーとなっており、立場の違いを越えて、精神保健の促進や当事者の権利擁護活動を行っています。

2年に1回世界大会が開催されますが、1993年には幕張で世界大会が開催されました。現在日本では約200人がメンバーとなっていますが、さらにメンバーを増やしたいと募集をしています。

メンバーになりたい方は、WFMH入会希望（年間会員か、永久会員かの別を書く）と書き、氏名・住所・電話・所属機関名・所属機関住所・電話を記入し、下記宛FAXしてください。日本事務局よりワシントンの事務局に送付の上、入会手続きをして下さるそうです。尚、会費は年間35ドル、永久会員は500ドルです。

申込先：〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知医科大学神経精神医学教室教授 井上新平 FAX：0888-80-2360

お詫びと訂正*

ニューズレター第21号の記事に誤りがありましたので、お詫びとともに訂正致します。

「精神分裂病の病名変更の動きについて」の記事のうち、「オゲソ・プロイテは・・・ツィルネーと改称することを提案し（1991年）」（誤）とあるのは、「（1911年）」（正）の誤りです。

他、21号の記事に誤字が大変多くお見苦しかった点を深くお詫び申し上げます。

（編集委員：田中美恵子、岩瀬信夫、中山洋子、若狭紅子、川添由紀、青本さとみ）

ワークショップ案内 (6月6日(土)16:00-1800)

1) 精神科看護事例検討会

〔担当〕 岡谷 恵子 (日本看護協会)
粟生田友子 (聖路加看護大学)
小林 信 (北里大学看護学部)

看護は実践の学問である。この命題を背負う限り、どんなに立派な理論や知識があっても常に具体とのすり合わせを行わないと看護は発展しない。事例検討の目的は2つ。1つは対象(事例となる患者)のより深い理解とよりよい援助の方向性を明らかにすること。もう1つは事例検討のあり方そのものを吟味すること。今回は2事例を用意しました。日頃抱えている問題や関心によってどちらかを選択し、ふるってご参加ください。

2) リエゾン精神看護

〔担当〕 川名 典子 (聖路加国際病院)
野末 聖香 (横浜市民病院)

リエゾン精神看護のワークショップは今年で7回目となり、年々深まりをみせている。

今年はリエゾン精神看護の専門性を発揮できる分野として、心的外傷後ストレス障害(PTSD)をテーマにとりあげる。心的外傷を受けた後の被害者への心理的ケアはいくつかの理由から看護が率先して担うべきものといえるだろう。

今回のワークショップではPTSDの概念およびその予防と治療、看護の実情について、できるだけ実例を交えて情報交換し、看護の方法論について討議したい。

3) 当事者活動の現在

〔担当〕 田中美恵子 (東京女子医科大学)
久田 満 (東京女子医科大学)
〔発表〕 沢田儀雄 (東京ドロップインセンター新宿あけぼの会)
有村律子 (埼玉県精神障害者団体連合会事務局長)
関根邦夫 (精神障害者自助グループ・昴の会)

日本の当事者活動はすでに30年以上の歴史を持つといわれるが、ことに1993年、幕張メッセで世界精神保健連盟世界会議が開かれたのを契機に、世界精神医療ユーザー連盟日本ネットワーク発足、翌1994年には、全国精神障害者団体連合会結成と、ここ数年間とみにその活動が活発化してきている。

今回のワークショップでは、地域に根ざして当事者活動を行っている3人の当事者の方から、自らの体験を踏まえた、当事者活動の現状や当事者の立場からの主張を発表していただく。

フロアとの活発な意見交換を通して、相互理解を深めていきたいと考えています。どうぞふるってご参加ください。

4) 精神科看護における倫理的ジレンマ

〔担当〕 羽山由美子 (聖路加看護大学)
〔発表〕 榎戸 文子 (聖路加看護大学)
小田 心火 (埼玉県立衛生短期大学)

精神科医療の現場で、看護婦が患者へのケアをするとき、しばしば臨床的観点からのみ判断・実施していることが多い。しかし、入院患者の人権、患者の意思決定と自律性(autonomy)といった倫理的観点に照らし合わせて考えてみると、それ以外の現実的要請が優先される場合もある。本ワークショップでは、判断に際しジレンマが生ずる状況を倫理的観点から検討する。

5) 体験グループ

〔担当〕 武井麻子 (日本赤十字看護大学)

体験グループは自分で行う実験です。大体20名前後のグループのなかに自分を投入することによって起こるさまざまな現象を、身体ごと体験することを目的としています。自分がそのとき感じたことをそのまま口にしてみて下さい。それがグループに自分を投入するということです。表現したいことを表現すればよく、逆に、言いたくないことは言う必要はありません。原則は一つ。自分自身であること。やがて、他のメンバーの中に自分を見いだしたり、自分でも今まで気づけなかった自分に気づくことになるかもしれません。

なお、当日セッションはテープで録音しますので、ご了承ください。

6) 精神看護学の教育展開

〔担当〕 安藤幸子 (神戸市看護大学)

平成9年「保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則」が改正され、精神看護学が専門科目の一つの柱として建てられた。新カリキュラムでの教育も1年が経過したが、精神看護学をどのように組み立て、授業と実習をどのように展開していったらよいかに関しては、教員一人一人が日々悩んだり試行錯誤しながら進めているというのが現状ではないだろうか。精神看護学の教育展開に関しては、さまざまな課題があるが、今回の第1回目のワークショップでは、看護大学と看護短期大学の教員の方々から実際に運用している精神看護学のカリキュラムを紹介していただき、フロアとの意見交換を通して、どのように精神看護学のカリキュラムを構築していったらよいかについて、理解を深めたいと考えている。